

042 むくみ・腹水・倦怠感

女性 七十五歳 主婦

主訴 手足のむくみ、腹水、全身倦怠感

現症 8ヶ月前、C型肝炎から肝臓癌に変わり（約2cm）ラジオ波焼灼療法（周波数の低い電磁波で局所の腫瘍を加温して凝固させる）で、癌を撲滅。糖尿病もあり、20年来のつき合い。

所見 脉状「弦数」、腹診「左天枢(+)」腹水でお腹が盛り上がっているのがはっきりわかる
火穴「行間・大都(+)

処置 扁桃、肝実（右復溜、漏谷、尺沢、郗門、少海）、肝・脾経の気水穴（中封・曲泉、商丘・陰陵泉）、糖尿（脊中、脾俞、章門）各処置を留鍼しながら雀啄。

経過 2回目（2日目）体がきついのはすこしはとれる。弦数、同前反応に陰陵泉（+）、同前処置に骨盤鬱血処置を加える。
3回目（7日目）体が軽い。足のむくみも軽減。
7回目（22日目）手足のむくみ、腹水も小さくなってる（エコーの検査で確認）。GOT90（36日前の検査）から54（2日前の検査）に下がる。陰陵泉（-）。
扁桃、肝実、肝脾気水、糖尿各処置。
11回目（36日目）腹水減る。疲れはあるが、足のだるい感じは減っている。
15回目（52日目）手足のむくみ消失、腹水も気にならないくらいになる。患者の顔は笑みで柔和になっていた。

考察 当患者は常連で、10年来通院されている。最初は、肩～頸～頭にかけてのこり、めまい、腰痛、膝痛と症状のてんこ盛り状態だった。その上に、C型肝炎、肝臓癌、糖尿病（インシュリン依存型）と難治の見本みたいな方である。

治療を始めて7年目、肝臓癌による腹水が溜まりだす。今ふり返ってこの時の治療を考えてみると、功を奏したのは肝実処置（肝門脈鬱血処置）と気水穴処置であったと思う。肝実処置は今でも慢性肝炎患者の肝機能数値を下げた例がいくつもある。この時、気水穴処置も加えてやっていったが、手足のむくみや腹水に威力を発揮してくれたのは、むしろこの処置だったようだ。気水穴を長く雀啄していると、足のむくみが動くのがわかる。患者の次回来院したときに、前回治療した翌日くらいから足が軽くなったと何回か聞いた。

この1年半後に下肢のむくみが再び現れたが、やはり気水穴で功を奏している。そして、初めて腹水がでて、約2年後に腹水がでた。このときも、肝実と肝・脾の気水穴を主にやり（他に肺・心包の気水も加える）、5回目（23日目）に腹水が大分減っていた。

気水穴は不思議な効力がある。基本的には火穴に反応があるときに使うが、例えば肋間神経ヘルペスや三叉神経ヘルペスみたいに罹患している経絡の気水穴（手足両方）を使うことでも効果がある。ほかに甲状腺機能亢進症にも適応できる。経絡の奥深さを感じさせる。